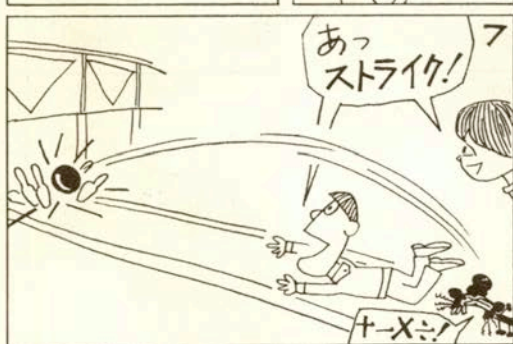
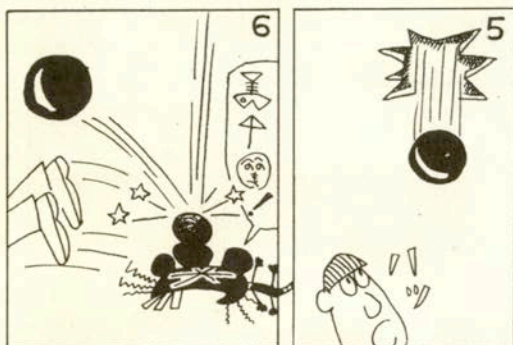
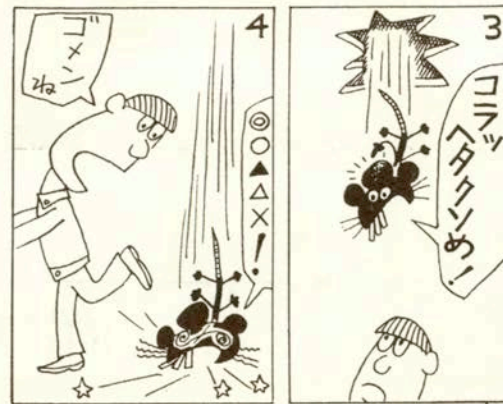
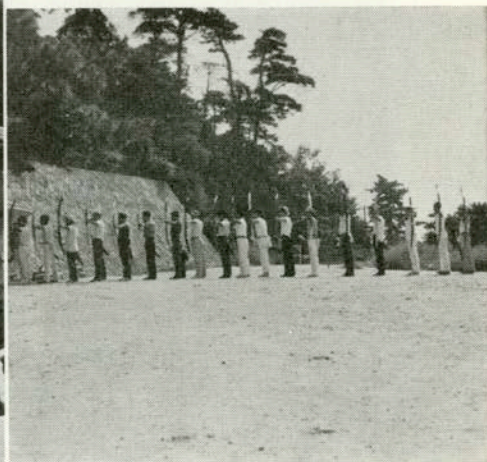


神戸遊戯誌

32

洋弓は戦前から行なわれていたわけで、洋画家の小磯良平さんなんかも過去にはやったそうだが、最近はおっぱらゴルフにご執心で、おかげで健康を取り戻した、と喜んでゐる。だが、洋弓の話を持ち出すと、「あれはバストが広くなるから、若い人にはもってこいだ」と、今でも礼讃者の一人である。文化人のファンはまだそれは



右、快晴の練習日、ずらりと全員で一斉射撃を試みるひととき。

左、90メートルの最長距離。ねらうのは腕に自信のベテランぞろい。中央道永氏。

どでないが、ベテラン組には「歌のオバさん」の松田トシや女優の高千穂ひづるなどがある。全国にはアーチェリー協会が二十六支部できているが神戸アーチェリー協会の実力は全国でも一流で、昨年の全国大会の時には、優秀選手百人が選ばれた中に神戸から十五人はいった。全く全国一の成績だった。また個

洋弓 2
青木重雄

人戦の成績も優秀で、昨年の東京大会には道永水員が準優勝したし、一昨年の京都大会では道永史子（ふみ子）夫人が女子の部で堂々と優勝した。彼女の上述よりはすばらしく、五年前から習い出したが、三カ月後に早くも大会（昭和三十六年度）に第二位となったほどである。神戸の学生選手の活躍もりっぱだ。全日本学生アーチェリー連盟主催の全国大会が年に二回催されているが、

関学大は優勝の経験を持っているし、神大、甲南大、神商大、山手女子短大の大学組、甲南女子、松蔭女子、葺合高校などの成績もずば抜けている。会社チームでは、神鋼がいちばん強く、すでに六年間の弓歴を誇っている。つづいて神鋼ファウドラと小泉製麻が熱心だ。

同支部は神戸と姉妹都市のシアトル・アーチェリー協会との対抗競技も今までに二回やったが、この方は二回とも惜敗した。もっともこれは実際の試合をやったわけではなく、五人団体戦のスコアの交換によるものだった。先にアメリカの巡洋艦ウイルキンソン号が神戸港に立ち寄った時、水兵三人と士官一人が「王山レンジへやって来て練習したが、あまり当たらず、互いに「ノー・グッド」と笑い合いながら帰船していったことがあったそう。天候は野外の競技にはつきものだが、アーチェリーの場合も同様で、風が相当に影響するから、やはり経験と計算が必要となってくる。発射の瞬間矢先がちょっと上向いてもかなりの狂いが生ずるのだから、風の影響は相当なものといえる。近ごろ同レンジにはナイター設備もできているが、ネライと風と電光への慣れの三つが必須条件というわけだ。

洋弓の歴史は古く、一万年以上も昔から使われていたエジプト、アッシリア、古代ギリシャを経て、ヨーロッパ全土へひろがったが、なかでもイギリスで高度の発展をしたものだ。アメリカへは十九世紀初めに伝わったが以後アメリカ国民の好きな遊戯の一つとなり、今日ではアメリカのアーチェリーの實力は世界のトップ・レベルを占めている。現在国際弓術連盟（FITA）には日本

初め二十九カ国が参加しているが（ソ連は未加入）、使用弓と矢は国によって形状や材質に多少の相違があり、二十種以上にも達している。どの形や材質がいちばんよいということよりも、結局は各国の選手の性（しょう）に適した弓具を選ぶことが實力を発揮する最大ポイントといわれている。

日本のアーチェリーの實力はかなり高く、神戸アーチェリー協会のナンバーワンの道永選手が、練習のとき万点に近い合計点を出したことでわかるが、公式の国際試合の経験はまだ浅く、従って記録的にも世界的レベルへは今一步というところである。世界アーチェリー選手権大会（隔年ごとに開催）へ日本が初参加したのは、一九六一年度のオスロー（ノールウェー）における第二十一回大会で、亀井俊雄（山口県）橋本与三郎、入江隆（東京）岸野計一（静岡県）の四選手が出場した。つづいて六十三年にフィンランドのヘルシンキで催された第二十二回大会には、岸野（日本薬器）寺田五郎（ヤマハ発動機）末田実（大阪府立大）猪股英毅（慶応大）の四選手が出場したが、団体戦は第十位、個人は第二十四、四十四、五十一、五十六位にとどまった。前回と共にいまだしの成績だったが、それでも前回と比べると、団体では、五、八五八点と三七六点、個人では猪股選手の一、〇二八点は亀井選手の一、九七九点を四九点レベル・アップしていたから、たしかに向上の跡を示したものだ。なお、前回と本大会の二つとも、アメリカが圧倒的な強味をみせて、団体、個人共に優勝した。昨年度のアメリカにおける第二十三回大会はつこうで参加しなかったが、国際試合の成績はまだまだとはいえず、若い人々に優秀選手の現われつつある日本の洋弓界のこんごは楽しみだ。神戸からもそのうち世界的な選手が出現しそうな気がする。

△おことわり 前号の記事中ベテラン鯛中新氏は副会長でした。▽

神戸うまいもん巡礼

赤尾兜子

茶漬け・にぎりめしの巻



民芸品も楽しい「くれない」の店内。

写真左頁 上は「ふる里」の風味ある五色ムスビ定食にタイ茶漬け。

下はおじや・源五郎鮎の煮付・山仙卵のカニ巻き・あなごのキモ煮などいろいろとどりの「くれない」の料理。

戦後味覚のぜいたくさ、それはほぼ頂点に達しつつあるようだ。濃、淡両様、和洋両様、その品ぶれは多岐にわたっている。茶漬けやにぎり飯の店がちゃんとした構えて、成立つのも、戦後のひとつのいちじるしい現象とみていいだろう。

「くれない」(生田区北長狭通一、生田新道南側)は、そうした風潮に乗った店である。昭和二十五年、北支那から引きあげ、母子三人が三宮町三丁目に開いた店は、ほんのささやかなもの、あたりにまだ焦土がめだっていた。三十四年春、いまの店へと変ってずいぶん広くなった。三十人くらい収容できる。

六十ほどの料理がスミ書きでメニューに書いてある。これらの味の原型は、白子エミさん(七四)がいまも吟

味して作っている。エミさんは昔京都、山科の料亭に縁づいていた。そんな昔と器用さをあわせて、味を京風にととのえた。好評の「おじや」(二百円)にしても、ふと客に注文されたことから研究を積んでまとまったものだが、カツオ、こぶのだしに、小えび、しいたけ、かしわ、薄いかまぼこ、卵の厚焼、グリーンピース、お餅、三つ葉を加えた形。あっさりでなく、また脂っこくもなく、いろんな菜がご飯にはどよい味をつけ出している。付出しには、ハモの皮ときゅうりを酢で和(あ)えた「ハモ皮きゅうり」(四〇円) あなごのキモ煮(百五十円) 琵琶湖産の鮮(いさぎ) もろこ煮(百五十円) といったものから、子持ち源五郎鮎をミリンと酒で煮あげた一品(四〇〇円) 山いも(百円) カニを卵で巻いたカニ巻き(二〇〇円) ノリ入りダン巻(一五〇円) またサケの皮を台にして、サケの身、ところろこぶを浮かせた石狩汁(一八〇円) もある。季節ものは、時期によって品ぶれがかわる。

店内は民芸品が飾られ、冬は紺がすり、夏は白いかすりを着たすべて女店員のサービス。そんなところにも、都心にあって妙にひなびた感じがただよう。林美美子、井伏鱒二、永井竜男氏ら、この店へ足をよせた文人の色紙もみえる。エミさんの娘、仲崎初子さんが事実上の経営者「お客さまに、冬はお茶、夏は水をふんだんにさしあげるため、大きな器で出します」とおおらかである。

午後五時から午前一時までの営業。三宮町二丁目時代のこの店は、もっぱら左党の占拠するところだったが、い

まは、左党よりむしろ家族すれやB.Gの方が多いらしい。京風とくつろいでひなびたフンイキを楽しみたい向にはこの店をすすめておく。

にぎりめしをムスビという。それにおがついておムスビ、またおにぎりというが、ムスビというのは、もとは女房ことばである。そのおムスビが、とくにこのごろ若い女性に人気がある。家庭で作ればよさそうなものだが、そこはうまくしたもので、店のおムスビには、それだけの細工がしてあるようだ。

「ふる里」(生田筋、生田神社南)は三十年の開店。主人は九州出身の井上春好さん。ほかの店も経営しているが、ふとしたヒントで、おムスビの店にした。

一、二階で五十人ばかり収容できる。この店の五色ム

スビは、とろろ、たらこ、さけ、ノリ、ノリのふりかけの五つで百二十円。きれいな網目のザルに乗せて出すあたり、ただのおムスビにしても、風味が加わる。おムスビ定食は、くしかつ、赤だしをつけて二百円。またノリ、さけ、たらこのお茶漬けもあり、赤だし、つけものをつけて各百二十円。

すこしぜいたくな向きに、タイちりなどちり鍋(四〇〇円)もある。

料理というには、いささか貧素なムスビが、それでも商品として売れているのは、そのちょっとしたデザインといろいろの種類、そして家庭厨房の単純化によるせいだと私は思う。そのために、デパートのムスビ売場、行楽シーズンには、なかなかの売行きをみせている。



紳士入門 ③

How to be a gentleman

かけごとと紳士



文・竹田 洋太郎
え・石 阪 春 生

紳士の一つの条件として「かけごと」の達人でなければならぬではないか、というご指摘を頂いた。ただしその人は「かけごと」といわず「ギャンブル」とおっしゃったのであるが、あえて「かけごと」といったのは、紳士はギャンブルをしないものだからである。

すると妙な顔をする人もあるにちがいない。モナコのカジノにいけば世界一流の紳士淑女が、ルーレットの球の動きに目を輝かせているではないかと。だが、ここでのいいたいのは紳士は「ギャンブル」一般をやらないものだということ意味だ、つまり、紳士はルーレットを遊び、バカラを楽しみ、シユマントフェール(日本のカブによく似たもの)をやるが、それは一つ一つの「ゲーム」を楽しむのであるということだ。もっとも、ゲームもギャンブルも語源的には同じであるが、紳士が楽しむのはゲームの方であることを注意されたい。

日本の有名な商社の社長であった人は、学識も豊か、育ちもよかったが、年に数度は箱根あたりで開帳されるクロウトの主催する鉄火場に出席した。一晩で動く金額は数億といわれるものだが、その紳士は二十万円程度のものをひと晩ですってしまおうが、翌日は顔色も変えずにクラブの会合に出席したものである。むしろ氏は、鉄火場でなにか決断力とか殺気を感じるカンとかを身につけていったので、それほど金額はいわば「投資」と考えていたのである。

つまり、株式においても「投機」は一種のギャンブルといっている。だが紳士はいかに一見「投機的」な売買をやろうとも、本質的には「投資」でなければならぬ

い、それで金額では大損をしても、長期的に見て、紳士の人格の陶冶のための投資といふべきなのである。

そこで紳士は決断力を養うための「ゲーム」においてとくに紳士の修練をつむことができるわけである。俗にいう「イチかバチか」の場合にこそ人の能力が結集されねばならないが、それをかけごとの場で磨いていただきたい。そういう人には最近のベストセラーである「山本五十六」などをお読みになるがよろう。

一方、ちょっとした「かけごと」は人生に色どりをそえるものである。かつては殿上人も「すごろく」を楽しみ、上皇までがサイの目に関心を持たれた。近ごろは、麻雀がもっとも一般的なようだが、これは技術とツキのバランスがうまくとれたゲームといえよう。だが時には、ツキの要素の強いものも承知されるがよい。花鳥風月に心を遊ばしめるものなどは季節感に富む日本独特のものであるし、ダイス振るバーのマダムの白い腕が着物の間からこぼれるのもまた艶なものである。

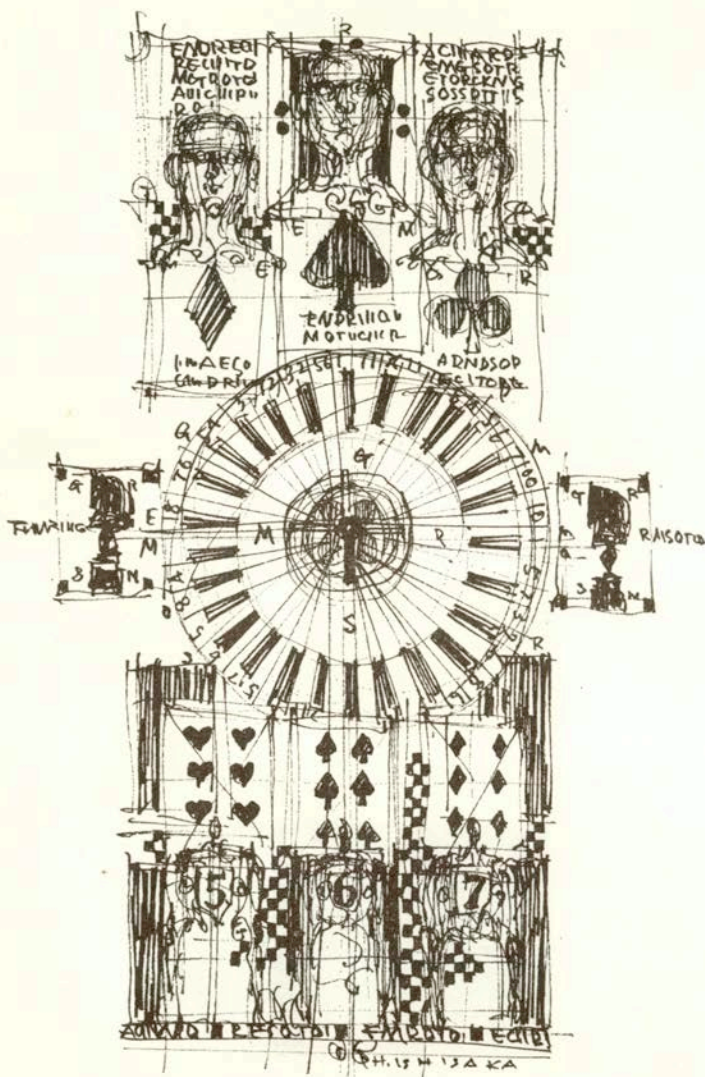
さらに、双眼鏡に出馬表、ほこり立つ春の野のためのダスターコートに身を固めて、競馬場に出で立つのもよく、関東だきと立ち小便のにおいがそこはかと漂う競輪場で人生の哀歓をしみじみ味わうのも人格の幅を広げる助けともなる。

ただ、その中においても、熱狂の一時が過ぎれば平常心をとり戻し、帰途立ち寄った酒場で淡々と敗戦を物語らねばならない。

勝った時はどうするか、これは帰途同行する人物が敗けておれば、これほど楽しいことはないのであるが、た

たとえば酒場で「こいつはきょう損しよって」というべきでない、また「おれはもうけた」ともいうべきでない。バーに立ち寄る前に高級な洋菓子を買うとか近所の寿司屋から大きな皿を運ばせるとかして女性が感謝のまなざしをあなたに送ったら、敗けた友人をちらと見かえしつつ「ほんの心祝いだ」という。そこで女性が「ねえ、どうして」とたずねると「××君にきいてごらん」と答える。自分が負け、テキが勝った話を、女性の前で物語らねばならぬほどの悲哀はない。そうした立場に敗けた人物を置くことこそ楽しいのである。あなたがもしその立場に置かれたら、むしろ淡々として事実を述べればよろしいそして女性をリードして、もうけを全部はき出させ

れはいいのである。
 ついでながら、ゴルフの小さいかけごとには、もっぱらチョコレートが用いられている、この創始者はさる製菓会社の社長であった。相手が勝った時にチョコレートを贈り（しかもあまり多くなく）敗ければビスの罐入りをもらう。それを地味に続けているうちに、家庭を留守にしているゴルフの良心がチョコレートのおみやげでいくらか癒されることが一般に知れわたり、どのクラブにも彼の会社の製品が行きわたることになった。いまその消費量は相当なものだが、これぞまことの「かけごと紳士」といえよう。





「文化をすすめる会」
本格的に動き出す

神戸の文化をどう進めるか、という問題についてはすでに論議がつくされ、あとは実行すること、すなわち文化をすすめることである。

そういった立場から「文化をすすめる会」(発起人代表、十河巖、田中健一郎)が誕生した。

「文化をすすめる会」では従来すすめられてきた、県立美術館建設運動の促進や、神戸文化センターの建設推進の運動をおすすめることを目標にしており、本格的な動きを見せている。去る3月28日午後12時半「文化をすすめる会」の会合がもたれた。出席者は、十河巖、田中健一郎発起人代表をはじめ、小磯良平、竹中郁、津高和一、陳舜臣など。

前回での推進事項について、その後の経過が十河巖氏から報告された。結局、この「文化をすすめる会」の組織を充実させること。

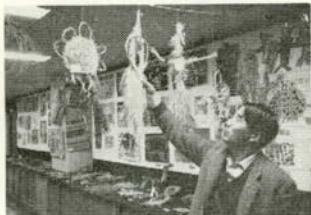
また、その連絡場所を設けること。などが話題になり「文化をすすめる会」の組織を充実することについては、各文化団体に積極的に参加をよびかける。なお、連絡事務所として、月刊神戸子編集室を使用することになった。

「文化をすすめる会」では、各文化団体の連絡を希望している。

△TEL 270-0377

小さな画家たちの展覧会

モスグリーンやワイン色のわらでつくった鳥の巣や、ぞうり、カーペット。紙ねんどのアクセサリー。そして水彩画が新聞会館K



豆芸術家たちの作品を見る大石先生

CCホールをいっぱいにうずめた。

3月26日から4月1日まで開かれた大石造形教室の子供たちの第一回展覧会である。「絵を描く」「ねんどをひねる」「版画をつくる」「わらをあむ」と四つの手法でのびのびと自由に、ユーモラスに描き、つくった作品は子供たちの素直な心とエネルギーが、自然にとびこんでくるのが楽しい。児童絵画の指導に熱心な大石可久也(一陽会・浪花短大講師)先生は「現在のオートメ化のすすんだ世の中では、子供たちが自然と親しむことはほんとに少ない。ワラを打ち、釜で染めあげなわをなつて、とんでもないぞうりをつくりあげる。アトリエ中わらだらけで子供たちは原始人やと喜びます。科学が進歩すればする程子供たちが素朴な心を持つことはとても大切ですよ。」と、小さなアチストたちにそそぐ先生の瞳は暖かい。

△大石造形美術室は西宮市松ヶ丘町59 TEL 297-297
大石先生のアトリエで開かれています

東南アジアへ奇術行脚

このごろ、とみに海外旅行をする人が増えており、学生も気軽に出かけていくご時勢。去る三月八日も、神戸港からベトナム号で東南アジア方面へ出かけた神戸子、福岡康年君(立命館大学三回生)がいる。

★はいからコーナ―

最近、玩具もいろいろ変わった物が売り出されていますが、なかでも外人たちに人気のあるものを紹介しよう。
バーテンの恰好をしたおじさんが右手にシエーカー、左手にグラスを持ち、スイッチを入れると、シエーカーを振り回して口元にもつていくと顔は赤くなり、目はグルグル廻り、耳からは白い煙がポツポツと出るなかなか変わった愉快なおもちゃ。
元町三丁目カメヤ



★ティータム

三宮阪急東口但馬銀行西隣にあかねや珈琲店という喫茶店がある。珈琲党にはぜひお奨めしたい店。店内はカウンターに九名の席があり、いろいろなコーヒカッパがズラリと並べられている。ここにもたくさんの種類があって、値段も一三〇〜九九五円まであって好みに応じて作ってくれる。少々高いが味良し、香り気味、豆の味もよく、使った美味いコクのあるコーヒが飲める。



ところがちょっと変わっているのは、目的が奇術行脚ということ。最初は福岡君も若いうちに海外へ出て何でも見てきてやろうというつもりで準備にかかったのだが、もともと大の奇術ファン、同じ行くなら、何か変わったことをというの、思いついたのが、この東南アジア奇術行脚。向こうで施設や学校を訪問したり、できれば街頭で店びらきをするとか……。

名村喜久江・永井登共著
「中年の魅力をつくる」
発行される

「中年は26才からはじまる」とは医学評論家杉靖三郎氏の言葉。人の肉体は26才を頂点としてそれからは

計時花



神戸の文化マスター
ブランをたてよう

神戸の文化をどう進めていくかということについては、いろいろなことがいわれている。しかしひとつの現実として考えられることは、神戸の文化水準は非常に高度であることは事実であって、

次第に衰えてゆきはじめて。それをいかに食い止めて若さを持続させることができるか。とくに若さと美しさに強い執着をもっている女性の読者を対象にしている。この本は、昨



筆を加えたもの。依田義賢、新谷秀雄、森本健二氏など有名名人にそれぞれファンの中年女性を語らせ、その魅力のポイントを引き出

この限りにおいては、文化不毛の地といわれることはないのである。

では、どうして文化不毛の地などというようなことがいわれるかそれは考えるまでもない。

神戸には残念ながら、神戸にふさわしい文化施設が全く貧弱なのである。だから、文化施設の設置が神戸の文化をすすめるための総てなのだとい

している。〈神戸っ子編集部でもとりあつかっている。定価三二〇円〉

神戸っ子が口ずさむ歌
「デイトインサンノミヤ」

神戸といえはセンター街といわれるまでに成長したセンター街も今年で20周年。去る4月6日センター街20周年を祝って、祝賀会がひらかれた。

そのセンター街をつきぬけた正面、「そこ」では、大増築を記念して三宮の歌「デイトインサンノミヤ」(歌と作曲高島忠夫)を作り、おおいに神戸のPRを目ざしている。

デイトインサンノミヤのソノシートを10名の方に差しあげます。ご希望の方は神戸っ子編集室までお申込みください。

えない。

神戸の文化にふさわしい文化施設をもちえなかったことはむしろ市民、われわれの責任である。今度「文化を進める会」が本格的に動き出した。

しかも、神戸文化の中心の人達が積極的に参加している。神戸文化開眼のときだ。

この際、文化のマスターブランをしっかりと打ちたてて、本当の市民の文化の場を確保するべきだと思う。

△K△

百店会だより

★ センター街をトア・ロードにのける角にあるフランス菓子のお店「ドック」ではこんど新しく「パンデーション」を発売。パンデーションというのはフランスのパンで、地方で愛好されている軽いサブレ風のお菓子。美味しいものには目がない神戸っ子にピッタリのお菓子です。

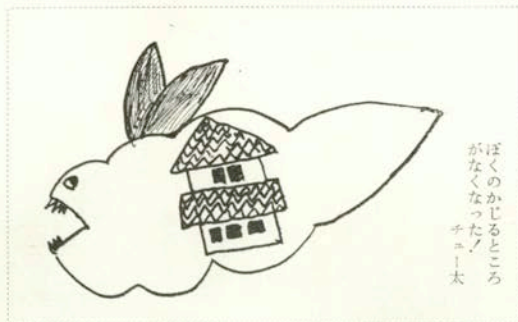
★ 春の元祖は神戸っ子には欠かせない菓子。思いがけない掘り出しものを見つけたときの喜びはショッピンギのダイゴさんといえましう。元町3丁目、さちかタウンに店をもつ「神戸眼鏡院」では、第七回近畿メガネまつりをし旅行ターボンなど豪華な景品があたる抽せん券付き感謝セールを行っています。

★ オリエンタルホテルでは、冬期間休んでいた舞子ヴィラを春にさきかけて開店。神戸っ子の皆さんに大自然にかまされて神戸の味をゆっくりと味わっていただくことと大いに親切切っています。また、六甲オリエンタルホテルも4月28日から店びらきをいたします。都会をはなれて山の緑を満喫するリラクステイムをお過ごし下さい。

★ 「観光シモン」を代表して世界の豪華船「キャンベラ」「ロツテルダム」などが続々と入港。国際会館一階にある「御本真珠店」「ベニ毛皮店」「錦泰堂」ではウエルカム・セールをもよおして観光客を歓迎。ミキセト・パールなどの賞品があたる抽せん券を発行するなど受入れにたわらむ。これからも入港船を迎えるたびに行う予定。

★ はいからコウベを代表するトア・ロードにある婦人帽子の店「マキシン」では去る3月3・4日「春の展示会」を三宮ビルで開催。日本人にはまだまだ不慣れな帽子のT・P・Oにあわせてかぶり方を知っていたかどうと、新しい試みとしてカデル・コーナー、トラペローナなどを作って実際にPR。大きな反響をよびました。トア・ロードの店内には春から初夏へかけての彩りも鮮やかな帽子の数々をいっばいにそろえまし

嫌なあいつ



ぼくのかじるところ
がなくなつた！
チュー太

世にいう、こわいものに地震、かみなり、火事、オヤジといわれるが害虫の恐ろしさは、あまり一般に知られていない。というより、実際に被害を受けないと実感が湧かないのだから。
いままで、わがネズミ族のことはばかり述べて来たが、まだまだ多くの世にはばかり述べられ者がいるってことを忘れないでもらいたいものである。
これからあたたかくなって、そいつらののさばる季節、順を追ってそいつらをこき降ろしていこう。

それを知れば、チュー太も案外可愛いところもあるのだなあと再認識してもらえないかな
もしない……という虫の良いことはいわないことにしよう。

風もなく、もちろん地震もない日、一家だんなで夕食をしている時に、突然天井から物が落ちてきたとしたりどうだろう。実際にそんなことが起こりうるのである。
その犯人が白蟻……。これからあたたかくなってくるとまず白蟻の季節。軒下や床下へ羽蟻が舞いこんだり、そこから飛び出したり

したら、まず警戒しよう。少なくとも白蟻が一家を形成しているときで間違いないだろう。全世界で白蟻の種類は千九百種余りあり、我が国には、ヤマトシロアリ、サマシロアリ、コウシロアリ、キアシシロアリ、ヤマトシロアリ、コウシロアリ、ヤマトシロアリの五種があるが、全国の白蟻被害のほとんどは、ヤマトシロアリとイエシロアリである。

あいつらは小さいからといって、バカにしたもんじゃやない。女王をたてまつり、完全な一社会を形成しており、われわれネズミ族がこちよこちよ壁のスキや天上に穴をあけてるのをよそ目に、せっせと集団で家一軒を破壊しているのだから。別に何ともなっていないじやないかとタカをくくっていると、とてもないことになる。あいつらの習性として、すべしと侵蝕は大体下から上へと向うため、外見上は全然わからない。見た目には何の変化もないが、一枚皮をはがせば、ガタガタに虫ばまれて、家中穴だらけになっていたというのが白蟻の被害である。小生たちのようにたまに、天井でドタバタ運動会をやつて存在を知らせるなんて、太陽気さつユーモアをテンデ持ち合わせていないんだから、性質（たち）が悪い。一見、マジメそうな人間ともが陰でコソコソ何をやつてるかわからないあのいんげんさと同じだ。

あの小さな体と似合わず、徒党を組んで猛威を振るう白蟻という奴は、分類学的にも猛等とされている。わずかQ、五ミセンチの体長でありながら、地下一メートル位の所に直径八〇センチに及ぶ本巣を構え、女王蟻を中心に雄シロアリ、職蟻、兵蟻など数百万にも達する家族的集団を構成しているものすらある。女王と王がもつばら繁殖にたずさわっており、いくつ体小さいといつても、色事師を認るわれわれネズミ族でさえ、とうてい及ぶものではない。イエシロアリで生命が十年前後で、その間、ナント産卵数が百万個以上。ヤマトシロアリで六年前後の生命で六十万個以上も卵を生み、その産卵期が暑い所では年中無休というからいやはやおどろき。それに、この白蟻という奴、主に木材を好むがそればかりか、兵蟻の体から分泌する蟻酸でコンクリートや石でさえバラバラにしています。また、家の散在する農村で、裏山の根に巣を築き、地下道を掘って数町も離れた農家を襲った例さえある。
小生がいうのもおかしなが、早く手を打って何らかの処置をこうじた方がイイと思ふよ。

あなたのお家をお店を会社を

害虫の被害からお守りします

アイワ式集殺法完成ノ

一回全滅責任保証

南京虫・油虫・白アリ・家ダニ・ネズミ一般消毒

害虫駆除予防化学研究所

害虫駆除防工事請負専門

お気軽にご相談ください〈調査相談無料〉

アイワ消毒株式会社

本社 神戸・生田区栄町2 TEL ③0854

伸びゆく 菊水總本店 瓦せんべい

瓦せんべいを創って
百年の歴史が地上四階
地下一階の近代的オートメイ
ションビルを完成しました

創業明治元年



株式会社
菊水總本店

TEL ③4 1310・1382・9874

鮭ト栄養ト美容ト健康

皆様パーモンド療法という言葉を御存じですかリンゴ酢と蜂蜜とを毎日常用して居ると美容と健康とによいと云われています。マルカン酢技術陣の総帥理学博士中山様（米国に約一ヶ年）一家と共に住み毎日酢の研究を続けられた日本で只一人の酢の博士として有名な方の御指導のもとに私又平が鮭メシの合せ酢を古来よりのカラをやぶって蜂蜜とリンゴ酢化学調味料の一番とを使用致しまして初めて調理しました。

当店の重なる商品名

活魚専門にぎり鮭 谷崎先生がお免状と云われた 満草小巻子鯛と有馬さんしょうを中具にした日持のよい 岩戸鮭 命名親林又一郎先生大好物ヒカリ物（エワシ・コハダ）雪花鮭 旅行用葉巻巻きとも云います 白枝昆布と電皮昆布とこんび 松前鮭 明石産子鯛 一握もの 笹巻鮭 小巻数種 明石鯛の握りを蒸し焼きにした名物 後鮭 変り鮭も多種多様御好みに応じ調理致します。 御土産に最適です。 鮭早期れ鮭は登録番号を持って居ります。 商標 はやなれすし 五四三七号 実案 早期れ 鮭 六八八五号

又平
電話 三三〇九三五

家庭的な雰囲気・暖かいお食事



グリル喫茶



サービスランチ
毎日献立が変わります
スープ付 150円

元町通3丁目本高砂屋2階 TEL 337368



断然スマートな神戸っ子の
若いあなた方coupleの結婚
披露宴は、キメのこまかい
サービスと本当の意味での
ハイセンスでスッキリした
レストラン コラル キタノ
で、深い印象を一生お刻み
下さい。

ご相談はお運び下さいますか、ご
一顧下されば係員参上いたします



レストラン
コラル キタノ

TEL. 23-2251



ビヤードクトル 探訪記〈2〉

志保見 道雲

＜兵庫般若林八王寺、長田区龜
甲寺満福寺住職・大本山永平寺
副管人＞

私がビールとつき合いだしたのは、体をこわして医者には酒はやめろといわれた昭和7年からで、ビールはお酒でないといっておきつつけて早や34年。オトソも毎年ビールで通している。このごろは少し量も減って朝晩一本ずつ。去る36年、法衣に下駄ばきで世界を一周してきたがついでに各国のビールを文字どおり飲み歩いてきた。瓶ビールは何といっても日本が一番うまい。生ビールはドイツだが日本も負けてはいない。ただ日本人はまだまだビールの飲み方を知らない。

ビールの楽しさは、ほろ酔い、ほろにがある。ところで、私も少しヘソまがりでさんちかタウンを今まで通ったことがなく、今日がはじめてで、もちろんこの店が最初。

ビールは、どどんさばけるところで飲むもの。その点、この店は活気があっていい。つまり、ものが新しいということであり、サービスが良くなるということである。

＜無腸道人・談＞

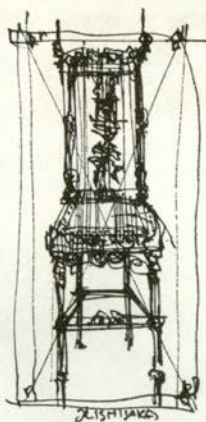
★ビヤレストラン **ニューオリエント**

三宮駅前三宮ビル地階 TEL<22> 3 1 2 4

無菌性ビールが大好評です。
会社の集会、ご家族の集い
にぜひどうぞ。

シーメンズ事件

小山 牧子 え・石 阪 春 生



神戸市の東端を流れる住吉川の流域、ことに上流のあたりは、明治のおわりから大正にかけて、関西の高級住宅地としてひらかれたところである。

広々とした邸宅の庭からは、松の古木が海にむかって枝をさしのべ、木立ちと土塀にふちどられた通りには、ピアノの旋律が、ゆったりとただよっていたりする。

阪神電車の魚崎駅を降り、東側にある川ぞいの道を三十分ほど北に歩くと、道は急なぼりになる。

そこは、すでに六甲山脈の山肌の一部で、あたり一面うつそうと樹木におおわれているところだ。

ヘルマン屋敷の廃墟は、その川ぞいの道を少し東へ、岡のように盛りあがった雑木林の中に立っている。

私が、はじめてヘルマン屋敷にであったのは、四、五年も前のある秋の午後であったと思う。休日の午後、気が遠くなるほどにのろろと過ぎてゆく時間をもてあまし、川の流れて逆行して歩いていた私は、林の真中からニョッキリと突きだしている、風雨のためにすでに褐色を帯びた塔屋を見つけたのであった。

道を探しだすのも、もどかしく、雑木林の中の雑草を踏みしだき、藁や野茨をかきわけ、建物の前にたどりついた私は、一瞬、息をのんで立止った。

幽鬼——。そんな言葉がびったりする建物が、いや、密に云えば廃墟が、わたしの目の前にそびえていた。

頑丈に石を積みあげて築いた地下室と、その上のレンガの壁。木の材質の部分は、すべて焼けおちていたが、建物の構造はそのままに残っていて、それが一層、私の好奇心や想像力をかきたてるようである。

石とセメントでいくつにも区切られた地下室は、暗く湿っていて、囚人を閉じこめておくのに恰好のものと思われたし、その上の黒く焦げたまま、ばらばらと剥けおちてきそうに風化し、レンガが露出した壁は、多くの人間の悲しみや呪いを何年も吸いつづけてきたように謎めいている。北側の一面だけ完全に残っている壁と、その壁にうがたれた窓。背後にある動かない白い雲や樹木の梢を象眼したそれは、ちょうど巨人のめがねに似ていた。そして、同じように風化した塔屋と、その先にのっ

ている尖塔が、まるで古い針のようにコバルト色に澄んだ秋の空に突き刺さっているのだった。

西洋の古城の廃虚に一人まよい込んだような錯覚を、ひととき私は感じた。どこからか亡霊が現われても不思議ではない。

壁に手を当ててじっとしていると、戦慄が身体を馳けるのをわたしは感じた――。

やがて半時間ほどの後、私は帰途についた。

かつて、この建物のためにつけられ、さだめし立派な車道であったはずの道が、雑草におおわれてはいたが、石段のある玄関から川ぞいの道にむかって、まっすぐに通じている。その道が川ぞいの道にゆき当る曲り角に、一軒の掘立て小屋があった。

小屋の前では、木の皮のような皮膚の、がっちりとした身体つきでいながら、腰だけが直角に曲っているらしい老人が一人、木を挽いていた。おそらく、小屋の住人

は老人だけなのだろう。

不思議な廃虚にであつたための感動からか、少し調子はずれてしまった私は、その老人に話しかけた。

「おっちゃん。あのすごい建物、なんやの？」

「あれかいな？」

老人は、ゆっくりと顔をあげ、私を見た。

瞬間、私は少女時代に読んだ「ノートルダムの子」男を思いだした。老人は、私が長年いだいていたカジモドのイメージにびつたりだったのだ。

「あれはな。昔、スバイが住んどった屋敷や。」

「へえ？ ほんまア！」

「うそなもんか。ちよつと、ねえちゃん。ええもん見せたるよつて、こつちやへ来てみイ。」

老人は、生え繁っている羊歯の葉を踏みしだいて、私を崖ぎわへみちびいた。

「これな。スバイの抜け穴や。」

見ると、建物のある場所にむかって延びているらしい洞窟が、入口をレンガとセメントでがっちり固められて口を開らき、湿った風を吐きだしている。

「なッ！ ねえちゃん。ちよつと入つてみイ。深い穴やでえ。」

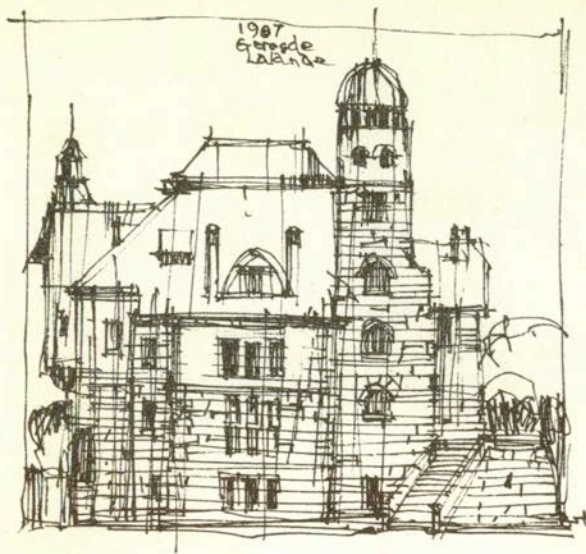
老人は、私の手を取らんばかりにすり寄ってくる。

「ええねん。また今度にする」

私は、人気ない廃虚よりも、洞窟よりも、このカジモドに似た老人が一層おそろしく、一目散に川ぞいの道を駆け降りたのだった。

それからしばらくして、私はこの廃虚が、大正のはじめ、日本の政治をゆさぶり、ついに内閣総辞職という結果に追い込んだ、シーメンス事件の中心人物であるドイツ人、ヘルマンの館の跡であり、老人がまことしとやかにスバイの抜け穴と教えてくれた洞窟は、ヘルマンという大金持の作つた酒倉であつたことを知った。

明治三十五年、日本に永住する意志を堅くしたヘルマンは、同じドイツ人の建築家デラランデに依頼して、こ

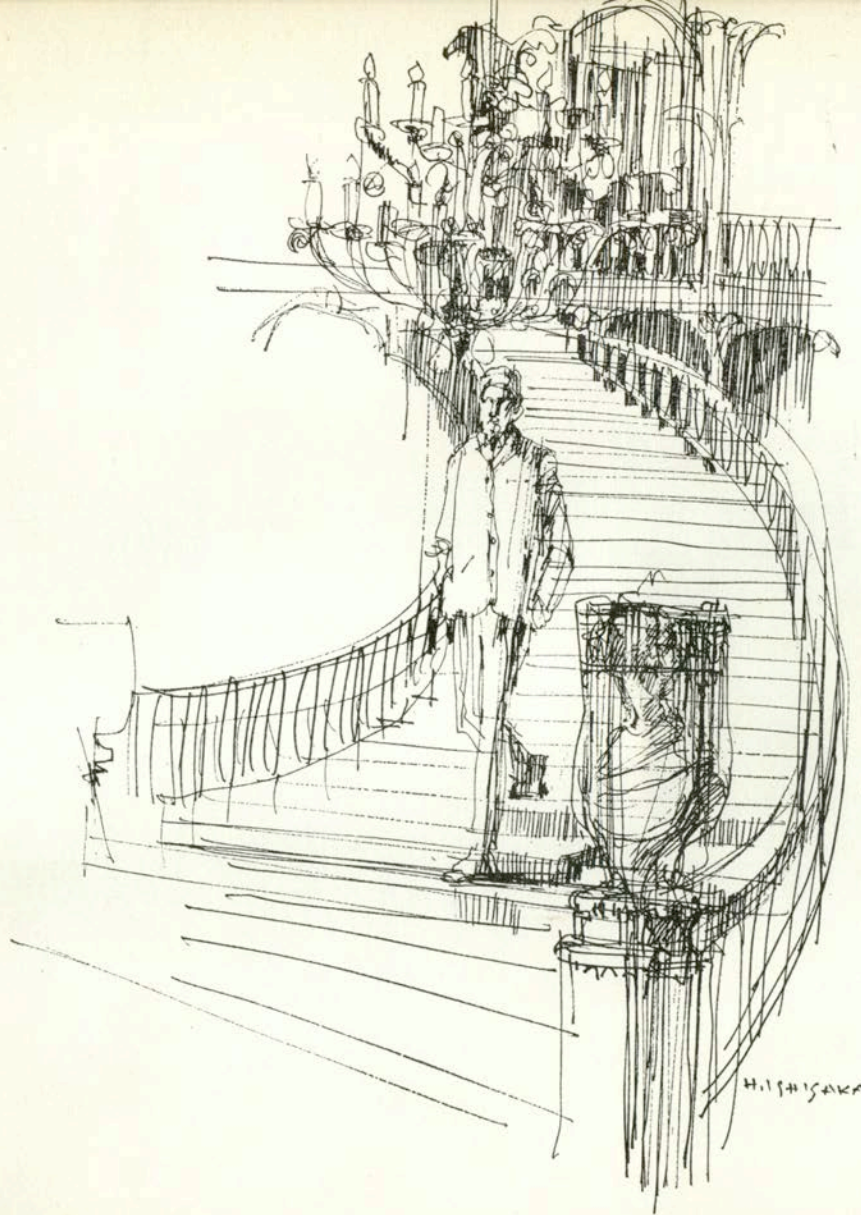


の地に彼の館を建てた。建築中に火災を起し、もう一度、基礎工事からやり直すという試練に会いながらも、できあがった館は、当時、神戸の山手に建てられた明治後期の異人館にくらべ、ずばぬけて堂々としていた。

そのころ日本に建てられた異人館は、おもにコロニアル様式で、それは日本の風土と豊富にある材質を考え合わせ、ヨーロッパの建築様式を変形させて造ったものである。

ヘルマンの館は、このようなコロニアル様式を完全に排除した。ドイツ式の本格建築である。ヘルマンの財力と、デラランデの理想主義がびつたりと合致し、本国から遠く離れた日本の雑木林の中に、このようなまるで中世の貴族の城のような館を建てたのである。

いま、ヘルマン屋敷の廃虚に立つ時、私は民族の血の流れのようなものを感じずにはいられない。石の壁や、三層のマントルピース、そして石だたみの床から響いて



★ 神戸文化情報 ★

市民同友会が
「市民の学校」文学ゼミナールを
5月に開校

市民の学校は、神戸の中心地三宮センター街とさんちか・タウンの入口に位置した宮脇ビル五階の市民同友会ホールで、5月2日からスタートします。

募集期間 4月5日より1カ月間
講義期間 5、6、7、8、9、10月
講義日程 夜6時～8時半
聴講者定員 200名
聴講料 入会費 千円
受講料 100円（1月1コース）
但し6ヵ月前納

講義コースと講師

1. 小説コース

現代小説の鑑賞と批評 文芸評論家 松原 新一

一戦後文学を中心に考える一

作品鑑賞・明治末期の日本文学

一特に海外と脈木一

大阪社会事業短大助教授 服部 正
創作と方法 作家 田辺 聖子

2. 現代詩コース

創作と方法 詩人 安水 稔和
神戸詩史（戦前・戦中・戦後）詩人 君本 昌久

3. 俳句コース

創作と方法・現代俳句 俳人 赤尾 兜子
兵庫俳壇の人と作品 俳人 伊丹三樹彦
一口習子から赤尾兜子まで一

4. 短歌コース

創作と方法 その1 歌人 磯江 朝子
創作と方法 その2 歌人 額田島一二郎

5. 美術コース

今日の美術・その鑑賞と批評 美術評論家 赤根 和生

私たちの美術史

一日本と神戸一

神戸新聞学芸部次長 伊藤 誠

6. 外国文学における政治の問題

一J・P・サルトルはか一

神戸大教授 小島 輝正

現代文学における性の問題

一エリオット・ロレンスなど一

大阪工大助教授 松浦 直巳

7. 漫画コース

創作と方法 マンガ作家 高橋 孟
現代漫画家論 関学大講師 津金沢聡広

×

※市民の学校への申込み又は問合せは下記へ

神戸市生田区加納町5-25

三宮センター街宮脇ビル5階

市民同友会事務局

TEL神戸(39)4306番

くるのは、ゲルマン民族のもつ重い野性的な血のリズムなのだ。

ヘルマン屋敷には、スパイの抜け穴と同じくぐいのさまざまな風説やエピソードがある。その中で一つだけ、この土地に古くから住んでいる老人から聞いたほとんど真実に近い挿話がある。

いつからか、この廃虚がおばけ屋敷と呼ばれるようになった由来がそれだ。

ヘルマンがこの土地を去ったあと、彼の館は、そのまま住む人もなく放置され、近在の博徒たちの賭博場になっていた。

その館の北側に、窓全体にびっしりと鉄格子をはめ込んだ、見るからに陰惨な、たぶん倉庫として使用したらしい別棟の建物がある。

館が無人のまま荒廃してゆくある時期、それはたぶん昭和五、六年ごろであつたらしいが、かなり著名な洋画家の一家が夫婦と息子二人で住んでいたことがあった。

彼の長男は、重症の精神病患者で、たびたび激しい発作を起したという。

夜になると、狂った若い男の悲鳴が、川を渡って、対岸に点在する民家に住む人々の耳をゆさぶったのである

う。

骸骨のように佇立する無人の館と、人間の悲鳴。

附近に住む人々は、いつからともなくヘルマン屋敷のことを、おばけ屋敷と呼ぶようになったといわれている。

屋敷はその後、昭和十九年の空襲で焼夷弾の直撃を受け、木の材質の部分をすべて焼かれ、現在にいたっている。

いま、ヘルマン屋敷の周囲全体は、赤土の地肌をむきだし、その上をキャタピラの歯型が縦横に交錯し、ブルドーザーががりがりと土をけずっている。

住吉川の河床に作られた自動車道路をダンブカーがいそがしく走り、土はすべて海岸線の埋め込みに使われているのだ。

そして、あと一年も経たないうちに、ヘルマン屋敷の古い壁や、レンガもばらばらに砕かれ、汚水のように白濁した灘の海に投げこまれてしまふにちがいない。

その凄惨な美をたたえた廃虚と、そこに住んだ人々のありし日の姿をとどめるために、どのような言葉を選び集めればいいのか。胸の内側を熱い風がうずまくのを、私は感じる。

△つづく▽